

# 自発的教養科目の説明

## 自発的教養科目の目的

自発的教養科目は、学生の自律的・自発的で実践的な学習の機会を保障することによって、学生の皆さんが今後、さまざまな機会をとらえて自律的・自発的で実践的な経験ができるようになる後押しのために設けられています。

## 自発的教養科目の内容

「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（自発的研究）」、「自発的教養（地域課題実習）」の3科目があります。

いずれも、学内の教員の指導の下で、次のあらかじめ定められた活動を行い、その活動実績が要件を満たせば、単位が認定されます。

- ・「自発的教養（ボランティア活動）」では「ボランティア活動」（表1）
- ・「自発的教養（自発的研究）」では「自発的研究」（表2）もしくは、定められた活動以外の自発的活動（専攻分野外の研究など）
- ・「自発的教養（地域課題実習）」では、「地域課題実習」（表3）

認定される単位は、「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（自発的研究）」では、30時間程度の活動で2単位、15時間程度の活動で1単位です。また、「自発的教養（地域課題実習）」は、30時間以上の活動で2単位です。ただし、この時間数は一応の目安であり、個々の活動に応じて単位認定に必要な活動時間は異なることがあります。また、定められた活動以外の自発的活動を行う場合は、学期・年度を越えて加算することができます。（ある年度に15時間の活動を行い、その前の年度に15時間の活動をした場合、合計30時間の活動として申請することができます）

自発的教養科目の取得単位の上限は、各科目2単位の合計6単位です。

## 自発的教養科目の単位取得に必要な条件

自発的教養科目の単位取得のためには、いくつかの条件が必要な場合があります。

例えば、

「ボランティア活動」が「自発的教養（ボランティア活動）」として単位認定されるためには、教養教育科目「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の単位取得が必要

になります。

(「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスマーケティング」の単位取得は、ボランティア活動の途中または終了後でも構いません。)

また、学外で行う活動で交通費などの経費は原則として自己負担となります。その他、各活動に必要な条件は下の表 1 ～ 3 の通りです。

## 自発的教養科目履修の手順

- ①興味を持った活動があったら、下の表の連絡先にある責任教員の先生に連絡を取って下さい。
- ②活動への参加が承認されたら責任教員の先生の指示に従い、活動をして下さい。
- ③活動を終わったら、「自発的教養活動証明書」および活動内容と活動から何を学んだかをレポートにまとめた「活動報告書」を責任教員の先生に提出して下さい。
- ④責任教員の先生は、「活動報告書」を点検し、活動時間等や「活動報告書」が単位認定に足るものだと判断した場合、「自発的教養活動証明書」に署名・捺印します。
- ⑤責任教員から「自発的教養活動証明書」・「活動報告書」を受け取り、「自発的教養活動単位申請書」に必要事項を記載して、教務課の共通科目担当者に提出してください。
- ⑥提出の期限は前期・後期ともにCNSでお知らせします。
- ⑦提出された資料に基づき、「自発的教養科目部会」で総合的に判断して単位認定が行われます。  
(学生の皆さんは授業の申告をする必要がありません)。
- ⑧詳細につきましては、以下の各学部の自発的教養科目部会委員にお尋ね下さい。

教育学部	阿部 茂 (abe@yamanashi.ac.jp)
教育学部	吉井 勘人 (yoshiis@yamanashi.ac.jp)
医学部	宮澤 恵二 (kmiyazawa@yamanashi.ac.jp)
医学部	宮本 和子 (mkazuko@yamanashi.ac.jp)
工学部	張本 鉄雄 (harimoto@yamanashi.ac.jp)
工学部	舩谷 敬一 (masutani@yamanashi.ac.jp)
生命環境学部	藤原 真史 (mfujihara@yamanashi.ac.jp)
生命環境学部	大貫 喜嗣 (yonuki@yamanashi.ac.jp)
教養教育センター	仲本康一郎 (knakamoto@yamanashi.ac.jp)

(上記は平成 28 年度の委員です。平成 29 年度の委員が決定しましたら改めて掲載します。)

表1 ボランティア活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
<p>☆スポーツ教室等におけるボランティア活動</p> <p>☆加藤朋之 (教育学部・教育人間科学部)</p>	<p>加藤 朋之 tomo-kato@yamanashi.ac.jp</p> <p>公開講座「エコールドゥスポーツ」での指導補助</p>	<p>活動時間：実習 30 時間、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修</li> <li>2. 活動中の宿泊費等実費は個人負担</li> <li>3. 対人賠償を含む学生保険の加入</li> <li>4. 大学で実施している健康診断で健康であること</li> </ol>
<p>☆東日本大震災ボランティア活動</p> <p>☆阿部 茂 (教育学部・教育人間科学部)</p>	<p>阿部 茂 abe@yamanashi.ac.jp</p> <p>東日本大震災の復旧支援、被災者支援などのボランティア活動を通して、社会的貢献への期待に応えるとともに、社会参加への視野を広げてほしい。</p>	<p>活動時間： 15 時間で1 単位、 30 時間以上で2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修</li> <li>2. 活動中の宿泊費等は自己負担</li> <li>3. 対人賠償を含む学生保険への加入</li> <li>4. 大学で実施している健康診断で健康であること</li> <li>5. 活動は平成 23 年度中になされたものに限る</li> </ol> <p>なお、単位認定の詳しい要件や留意事項については、平成 23 年 7 月 22 日付で CNS に掲載された「自発的教養科目（東日本大震災ボランティア）新設について」を参照</p>
<p>☆学部新入留学生に対するボランティア活動</p> <p>☆伊藤孝恵 (国際交流センター)</p>	<p>伊藤 孝恵 takaei@yamanashi.ac.jp</p> <p>学部新入留学生に対する生活上及び勉強上の支援や留学生との交流活動を通じて、国際人としてのボランティア精神や異文化理解、異文化間コミュニケーションスキルの育成を図ることを目指す。</p>	<p>15 時間で1 単位 (週 1 コマ程度の時間)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修</li> <li>2. チューターオリエンテーション、交流会への出席</li> <li>3. 留学生との交流活動</li> <li>4. 活動中かかる実費は個人負担（飲食や娯楽など）</li> <li>5. 学生保険への加入</li> <li>6. 月に一度、活動報告の提出</li> </ol>

表2 自発的研究

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆フィールド調査実習 ☆竹内 智 （生命環境学部）	竹内 智 take@yamanashi.ac.jp 科学についての興味を喚起し、勉学へのモチベーション維持を目的とし、他大学の公開実習等への参加など、専門の教育・研究に触れる機会を提供します。	実習・事後学習：30 時間、1 単位 60 時間、2 単位	1. 活動中の交通費・宿泊費等は自己負担 2. 対人賠償を含む学生保険への加入 3. 事後学習(報告会等)は必修 4. 平成 26 年度活動から認定
☆資源循環型ものづくり実習 ☆竹内 智 （生命環境学部）	竹内 智 take@yamanashi.ac.jp 新エネルギーとして注目されているバイオディーゼル燃料（BDF）の精製、使用済み食用油の回収精製体験を通して、廃棄物のリサイクルや地球規模の環境問題を学習する。	実習、研究：30 時間以上、2 単位	別途案内する説明会でより詳しい説明を行う。
☆ロボコン ☆小谷信司・寺田英嗣 （工学部）	小谷 信司（情報メカトロニクス工学科） kotani@yamanashi.ac.jp ロボコン参加に関わる技術研修、ロボットの開発、製作、大会参加	実習・講義：60 時間以上、2 単位	1. 参加人数は10名程度に制限 2. ノートパソコンなどは自己負担 3. 主な活動場所：工学部機械、情報メカトロニクス工学科研究室
☆地域プロデュース・まちづくりに関わる実習 ☆石井信行 （工学部）	石井信行（土木環境工学科） nobur32@yamanashi.ac.jp 環境学園都市甲府を将来像として掲げ、市民や行政とコラボレーションしながらプロジェクトを立案・実行する活動において、学生は主体的に関わりながら地域プロデュースやまちづくりについて学ぶ。活動状況はウェブサイト ( <a href="http://www.cec.yamanashi.ac.jp/~nobupdlabo/">http://www.cec.yamanashi.ac.jp/~nobupdlabo/</a> ) で紹介している。	実習、研究：30 時間以上、2 単位	1. 活動中の宿泊費等実費は個人負担 2. 学生保険の加入

☆統合能力 型高度技 術者養成 プロジェクト「学大 将」関連の 実習 ☆垣尾省司 (工学部)	垣尾省司（電気電子工学科） kakio@yamanashi.ac.jp 工学部が設定、運営する学大将プロジェクトのうち、マイハウスプランに属するキャリアハウス、ベンチャーハウスに登録された学生を対象としています。それぞれのハウスでの研究や起業活動を通じて、学生は技術者としての意欲と能力をいっそう伸ばします。活動内容はウェブサイト ( <a href="http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/index.html">http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/index.html</a> ) で紹介している。 具体的な単位認定の基準・手続きは各担当教員に確認してください	実習，研究：30 時間以上，2 単位	1. 参加者は活動中の交通費等 実費の一部を個人負担する場 合有り 2. 学生保険の加入
---	---	-----------------------	---

表 3 地域課題実習

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆ワインツーリズムの実践 ☆ワイン科学研究センター 教員 (生命環境学部)	ワイン科学研究センター教員 平成 29 年度は、奥田 徹 okuda@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、地域におけるワインセミナー、ワインツーリズム関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・計画・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位	1. 3～4 年生を対象とする 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
☆アグリツーリズムの実践 ☆菊地 淑人・田中 敦 (生命環境学部)	菊地 淑人 ykikuchi@yamamashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、地域におけるアグリツーリズム関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・まちづくり・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位	1. 3～4 年生（2 年次に行った活動を次年度加算すること可能）を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入

<p>☆環境分析ネットワーク</p> <p>☆風間 ふたば (生命環境学部)</p>	<p>風間 ふたば kfutaba@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における環境分析ネットワーク関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限</p> <p>2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担</p> <p>3. 学生保険の加入</p>
<p>☆ツーリズムによる産業活性化・地域活性化</p> <p>☆大山 勲・西久保 浩二 (生命環境学部)</p>	<p>大山 勲 ooyama@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における産業ツーリズム関連事業や観光まちづくり・景観まちづくり事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・まちづくり・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生（2 年次に行った活動を次年度加算すること可能）を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限</p> <p>2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担</p> <p>3. 学生保険の加入</p>
<p>☆環境保全型農業技術の開発</p> <p>☆矢野 美紀 (生命環境学部)</p>	<p>矢野 美紀 nakatam@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における環境保全型農業技術の関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限</p> <p>2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担</p> <p>3. 学生保険の加入</p>
<p>☆森林の継承と環境保全計画立案</p> <p>☆馬籠 純 (生命環境学部)</p>	<p>馬籠 純 magome@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、森林管理の先進地域や森林問題発生地域を対象に事例研究を行う。対象地域に関する基礎的な解析にくわえ、関連事業への参加／視察により、地域毎の問題点の理解、課題の設定、解決のための計画立案といった一連の流れについて体験的に習得する。なおグループによる協働作業、議論、情報発信を通じて地域およびグローバルに活躍できる実践的能力を養うことを目指す。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限</p> <p>2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担</p> <p>3. 学生保険の加入</p>

<p>☆ICT の産業活用（センサネットワーク、スマートアグリ、高度植物工場、ハイテク農業機械開発等）</p> <p>☆美濃 英俊・鈴木 智博（工学部）</p>	<p>美濃 英俊 mino@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域におけるICTの産業への活用の関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限</p> <p>2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り</p> <p>3. 学生保険の加入</p>
<p>☆観光・防災・景観等の地域情報の発見・発信による地域貢献力の養成</p> <p>☆秦 康範、荒木 功平（工学部）・大山 勲（生命環境学部）</p>	<p>秦 康範 yhada@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における観光・防災・景観等に関する地域の特徴や資源を発見し、それを様々な人に分かりやすく伝える方法を学び、発見から発信に至る一連の企画・実践の体験によって、地域創生に貢献できる具体的な技術を体得する。本実習では特に発信方法における実践的技術の習得を目指す。例えば、観光では観光資源の発見→ガイドブックの作成→ガイドツアーの企画・実践をおこなう。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に付ける。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限。グループで作業します。（3 名程度のグループでの参加も歓迎します）</p> <p>2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り</p> <p>3. 学生保険の加入</p>
<p>☆エリア放送を活用したコンテンツ作成の実践</p> <p>☆郷 健太郎（工学部）・井坂 健一郎（教育学部・教育人間科学部）</p>	<p>郷 健太郎 go@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における様々な活動取材してコンテンツを作成するというケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・提案などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限</p> <p>2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り</p> <p>3. 学生保険の加入</p>
<p>☆山梨の農業とその発展</p> <p>☆村松 昇・三木 健夫（生命環境学部）</p>	<p>村松 昇 nmuramatsu@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における農業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習、実習、事後報告：30 時間以上、2 単位</p>	<p>1. 3～4 年生を対象とし、参加人数は 10 名程度に制限</p> <p>2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り</p> <p>3. 学生保険の加入</p>

平成29年2月

## 自発的教養科目の単位申請について

全学共通教育科目の自発的教養科目には、「ボランティア活動」、「自発的研究」、「地域課題実習」があります。

いずれも対象となる活動を行い、その活動実績が要件を満たせば、単位が認定されます。

各活動の責任者の先生と相談をして、申請を行ってください。

各活動には1単位または2単位相当の活動時間が定められており、ボランティア活動の場合はさらに教養教育科目（テーマ別教養科目）「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修が条件となっています。

これらの条件を満たしていることを確認してから、各活動の責任者の先生と相談し、先生から自発的教養活動証明書をいただき、自発的教養活動単位申請書に添えて下記により提出してください。

これらの書類を元に教養教育センター自発的教養科目部門が自発的教養科目の単位認定の可否について判定を行います。

（詳細は、別添の「自発的教養科目の説明」をご覧ください。）

### 記

申請窓口： 甲府キャンパス：教学支援部教務課①番窓口（Y号館2階）  
医学部キャンパス：学務課  
（申請書類は、CNSからダウンロードしてください）

申請期間： 平成29年4月10日（月）9：00～  
4月14日（金）17：00

以上



## 自 発 的 教 養 活 動 証 明 書

所属\_\_\_\_\_

責任教員（または運営担当者）\_\_\_\_\_ 印

下記の学生は、私が責任教員となっている自発的教養活動について単位規定に足る内容を満たしたことを証明します。

活動名\_\_\_\_\_

学部（学科）学籍番号・学生氏名\_\_\_\_\_

対応科目名・認定単位数（※○をつけてください）

履修条件 （「ボランティア理論」 または 「ボランティアとサービス ラーニング」）	対応科目名	認定単位数 1 単位または 2 単位
履修済み	自発的教養（ボランティア活動）	1      ・      2
—	自発的教養（自発的研究）	1      ・      2
—	自発的教養（地域課題実習）	2

活動内容・判定 \_\_\_\_\_ の活動を行ったので単位認定可と判定する。

（判定理由）

## 自 発 的 教 養 活 動 単 位 申 請 書

私は、以下の履修条件を満たしていますので、自発的教養（ボランティア活動、自発的研究、地域課題実習）活動の単位を申請します。

活 動 名 \_\_\_\_\_

担当教員 \_\_\_\_\_

活動申込日 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

単位申請日 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

所属学部・学科・学年 \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ 印

### 申請条件

- 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修  
平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 合格 （該当する場合○を付けてください）  
(ボランティア活動の場合は必須なので、合格確認後に申請を行ってください)
- 一部の活動では対人賠償を含む傷害保険が必要となります。加入している保険の名称を記載してください。  
☐ 学生保険等  
☐ ボランティア活動の派遣先で負担  
☐ その他 \_\_\_\_\_
- レポート提出（A4レポート用紙を使用し、10ページ以内にまとめてください）  
レポートには簡単な活動記録と、活動に参加して学んだこと、心に留まったことなどを具体的に記載してください。レポートには、「活動時間報告書」を添付してください。

レポートの要約

活動の概要

活動期間 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月～平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月

注意事項：子ども図書室におけるボランティア活動は、教育学部・教育人間科学部教員養成課程の学生は教育実習活動に含まれるため、自発的教養科目の単位を申請することが出来ません。

# 活 動 報 告 書 表 紙

タ イ ト ル ( )

活 動 名 ( )

活 動 報 告 書 提 出 日 平成\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

所属学部(学科)・学年 \_\_\_\_\_

学 籍 番 号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

自発的教養科目単位申請用 活動時間報告書

活動名 \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

No.	活動年月日	活動時間数	活動場所	活動内容
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
総活動時間数		0		

上記について、確認しました。

平成 年 月 日 担当教員 \_\_\_\_\_ 印